



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	鈴木 秀洋		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 2		
講義室	1304	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる DP3-G 〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章および口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発◇（5%） C1 倫理観と公共心◇（5%） E1 学識・専門技能◎（25%） G1 状況把握力・判断力○（15%） I1 理解力・分析力◇（5%） K1 表現力・対話力○（10%） L1 協働力・牽引力◎（25%） M1 省察力○（10%）		
教員の実務経験	東京23区において、20年以上公務員として、法務、人事、監査、秘書（総務課長補佐）、危機管理課長、男女（ジェンダー）課長、児童福祉（子ども家庭支援センター所長）等の実務経験がある。 担当教員の实務経験を踏まえて理論と実務を架橋するゼミを行う。実務経験を踏まえた具体的事案の提示等はすべての授業会において行う（1回目から15回）。		
成績ターゲット区分	3発展期～4完成期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、問題意識を確立し、卒業論文に繋がる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識		

	を獲得します。 (キーワード) 危機管理 法学 研究テーマの構築、仮説の検証 授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。	
授業の趣旨	■副題 児童虐待、DV、災害弱者などの社会的課題に対して、危機管理学と法学を土台に解決手法を研究をまとめることができる。 ■授業の目的 卒業論文に向けた発表、討議、講評を繰り返すことにより、①自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、②倫理観と公共心、③学識・専門技能、④状況把握力・判断力、⑤理解力・分析力、⑥表現力・対話力、⑦協働力・牽引力、⑧省察力を身に付けることができる。 ■授業のポイント 社会で日々起こる紛争事例等について上記コンピテンスの力をもとに解決策を考えることができる。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・研究方法や研究論文の進め方について理解できる(1回) ・問題点や論点を探求し、自らの見解を持つことができる(2回～7回) ・自らの見解に対する反論を学び、更に再反論を展開できる(8回～10回) ■論理的に解釈して知見を見出すとともにその成果を論文にまとめ表現し発表できる。 ・自らの主張を支えるエビデンスを収集し分析することができる(9回～15回) ・文献の調査の仕方、引用の仕方を学ぶ(6回～10回)。	
成績評価方法	①卒業論文テーマの事前調査・研究、②卒業論文(中間報告)としての完成度、③卒業論文についての発表力・討議状況 上記について、下記を踏まえて評価する。それぞれの割合①40%、②30%、③30% (評価方法) 調査によるエビデンスを踏まえて多角的な視野から自らの見解を確立できているか評価します。 (フィードバックの方法) ゼミの時間内に講評を行います。 B1 自己啓発◇(5%) C1 倫理観と公共心◇(5%) E1 学識・専門技能◎(25%) G1 状況把握力・判断力○(15%) I1 理解力・分析力◇(5%) K1 表現力・対話力○(10%) L1 協働力・牽引力◎(25%) M1 省察力○(10%)	
履修条件	行政法と行政過程Ⅰ、行政法と行政過程Ⅱ、行政法と行政過程Ⅲ、地方自治と法、災害と法を履修することが望ましい。	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評等拠点設置に向けてゼミ全体のガイダンス ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行うとのゼミの進め方についてのガイダンス。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習(120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行う。 ④復習(120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえて卒業論文(中間報告)をブラッシュアップする方法をノートにとる。
	2	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1。以下14回同じ)。(教員の実務経験を踏まえて) ③予習(120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。

	④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
3	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
4	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
5	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
6	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
7	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
8	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッ

	ションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) (教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
9	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) (教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
10	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) (教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
11	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) (教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
12	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) (教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
13	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) (教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。

	14 ①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
	15 ①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
関連科目	ゼミナールⅠ～Ⅳ（RMGT4601～4604）
教科書	①鈴木秀洋（2021）『（改訂）自治体職員のための行政救済実務ハンドブック』（第一法規）ISBN978-4-474-07383-8、②鈴木秀洋（2021『虐待・DV・性被害・災害等から市民を守る社会的弱者にしない自治体法務』（第一法規）ISBN978-4-474-07165-0 ③鈴木秀洋（2019）『子を、親を、児童虐待から救う』（公職研）ISBN978-4-87526-392-0。三冊使用
参考書・参考URL	鈴木秀洋研究室HP http://suzukihidehiro.com/
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。
研究比率	■災害マネジメント15%、パブリックセキュリティ65%、情報セキュリティ15%、グローバルセキュリティ5% ■危機管理学40% 法学60%

